

家庭科学習指導案（Ⅱ限）

授業者 高橋美与子

クラス 4年B組 43名（男子26名，女子17名）

場 所 被服教室

1. 単元 コミュニケーション能力を高める保育の授業—絵本の製作・読み聞かせを取り入れて—
2. 単元のねらい

自分の思い通りにならない乳幼児を虐待してしまう親たちのニュースが日常的に報道されたり、自分の子どもにどう接していいかわからず困惑してしまう親が増えたりするなど、子育てのあり方が社会的問題になっている。その原因には様々なことが考えられるが、兄弟姉妹の少ない核家族の中で育ち、育児に関する知識を得る機会のないままに、我が子が生まれて初めて育児ということに直面するという状況もその原因の一つとしてあげられる。そんな現実の中で家庭科の保育の授業の果たす役割は大きい。そこでこの単元では、以下の点をねらいとして授業を進めていきたい。

①乳幼児は心身ともに未熟であるためおとなと同じように考えて接すると、大変な病気や怪我につながるということから、乳幼児を世話するときに必要となる心身の発達の特徴と衣食住の生活に関する留意点を理解させる。②人間形成の基礎となる重要な時期であり、愛情をたっぷり注いで育てることや自由に十分に遊ぶ時間や場所を設定することが大切であることを理解させる。③育児についての知識を伝えるだけでなく、できるだけじかに乳幼児とふれあう体験をさせたり育児のすばらしさや乳幼児の愛らしさをビデオで見せたりしながら、多感なこの時期に生命の大切さや、子育ての喜びを実感させる。④絵本の製作を通して、0歳からの読み聞かせの大切さや絵本が親子のコミュニケーションをとるために欠かせないということを理解させる。更に自分たちが製作した絵本を乳幼児にどう読み聞かせると、より充実した時間になるのかを考え実践させることを通して、高校生に最近特に低下しているといわれるコミュニケーション能力の向上をはかる。

3. 単元計画（全23時間）

①絵本の製作・・・・・・・・・・8時間	②乳幼児の心身の発達・・・・3時間
③保育園訪問・・・・・・・・・・5時間（本時1/5時間）	④乳幼児の生活と世話・・・・3時間
⑤幼児食の調理実習・・・・4時間	

4. 単元の評価規準

○関心・意欲・態度・・・自分もかつては乳幼児であったことを思い出し、現在、社会の中で共に生活しているまた、将来一人のおとなとして様々な立場で接していく乳幼児に関心を持ち、乳幼児の心身の発達や生活、親や社会の役割などに関して意欲的に学習し、保育園訪問のときなど、乳幼児と積極的に関わっている。

○思考・判断・・・乳幼児の健全な心身の発達のために家族や社会が果たさなくてはいけない役割や責任について課題をみつけ、その解決を目指して考えている。

○技能・表現・・・、乳幼児と関わるときに気をつけなくてはいけないこと乳幼児とのコミュニケ

ーションの取り方を絵本の製作や乳幼児との交流などの体験を通して考え、身につけ実践する。

○知識・理解・・・乳幼児期は人間形成の基礎となる重要な時期であることを理解し、乳幼児と接するときに必要な心身の発達や生活に関する知識を身につけている。

5. 本時の主題 保育園訪問－絵本をどのように読み聞かせるのか－

6. 本時のねらい

○応答的保育を取り入れたり擬音語・擬態語を効果的に使ったりするなど保育園で自分たちが製作した絵本の読み聞かせをするときに、子どもたちとどのようにコミュニケーションをとったらいのかを考える。

○保育園を訪問し、乳幼児と接するひとときが自分たちと子どもたちにとってより楽しい時間になるように読み聞かせをするときの工夫点を話し合い、新生児人形を使ったり園児たちのことを想像したりしながら絵本の読み聞かせの練習をする。

7. 授業展開過程

時間	学習内容および活動	指導上の留意点・評価
導入 8	1. 絵本の読み聞かせをしている保育園の様子をビデオで見て、感想を発表する。 ・読んでいる先生の様子はどうか、読んでもらっている子どもたちの様子はどうか。	・子どもたちが熱心に聞く様子を見せることで、意欲づけとする。 ・関心を持ってビデオを見ているか、観察によって評価する。
展開 32	2. 保育士の方たちはどんな点に気をつけながら絵本の読み聞かせをされているのかを資料から読み取る。 ・子どもたちの表情に注意しながら、抑揚をつけてはっきりと など 3. 応答的保育の方法や効果を思い出し、読み聞かせに取り入れる例を聞く。 ・ことばによる応答（発問、過程、受容）と心の応答（共感の表現）について 4. 読み聞かせに擬態語・擬音語を取り入れることの効果を確認する。 ・子どもたちの興味を惹く、リズム感があり楽しく読んだり聞いたりできる など 5. 自分たちが製作した絵本の読み聞かせの工夫点について話し合い、それを取り入れて練習する。	・乳幼児とのコミュニケーションの取り方について、様々な観点から考えようとしているかどうか、観察によって評価する。 ・自分たちが読み聞かせをするとき、是非気をつけたい点は何かをみつけるように指示する。 ・どのようにしてことばによる応答や心の応答を読み聞かせに使ったらよいのかをわかりやすく示す。 ・絵本の研究で擬態語・擬音語にはどんな効果があるのかを話し合った内容を思い出させる。 ・話し合いや練習に協力的に熱心に参加しているかどうか、観察によって評価する。
終結 10	6. できたところまでを発表し、受けた評価から保育園に行くまでに改善する点や練習する点をまとめる。	・うまく進んだ点と課題のまとめができて、保育園での読み聞かせに意欲を持つことができたかワークシートの記入で評価する。

